

意見の概要

近年ゲリラ豪雨による内水や小河川の氾濫被害が多くなっている。これは東京だけでなく、各地で起こっている現象だ。いまだに利根川流域の八ッ場ダムをはじめ、多くのダム計画が生き残っているが、長い期間と多大なお金がかかるダムに頼る治水はもうやめてほしい。また、スーパー堤防をはじめとする完成が見通せない事業もやめて、利根川の堤防が脆弱ならば、もっと早く安くできる技術を導入して、あふれても壊れないような堤防を造ってほしい。

八ッ場ダムに東京が参画しているのは、洪水対策と同時に水道水源としてである。東京は今多くの水源をもっている。八ッ場ダムに名乗りを上げたころは、人口が急増し、使う水の量も増えていたので、新たなダムが必要だったかもしれない。でも今では使う水の量がずっと減少している。時代は変わった。公共事業は、新たなものを造るよりもメンテナンスや施設の更新・長寿命化にシフトしなければならない。